

育成調教技術者養成研修

研修感想文集

- ・ 研修受講感想文（第 29・32・33 期生）
- ・ 研修修了者からのメッセージ（第 18・31 期生）
- ・ 研修修了者の紹介【取材記事】（第 28・30 期生）



公益財団法人 軽種馬育成調教センター

【研修受講者感想文・半年を終えて】

「日々成長」

第33期生 小竹 将貴

BTCに入講してから6ヶ月が経ち、日々の騎乗訓練や馬の手入れ、厩舎作業に励み、33期生一同、心身ともに成長を感じています。

私は入講以前に少しだけ馬に乗っていたこともあり、訓練の序盤は未経験者の研修生程の苦労は感じませんでした。しかし、訓練が進むにつれて鐙を短くしての騎乗が始まり、今まで経験したことの無い姿勢に苦労する日々が続きました。鐙を短くしてから馬の急な動きに対応出来ずに何度も落馬をしたり、体中が筋肉痛になったりと、慣れない姿勢に悪戦苦闘しました。しかし、毎日の体幹トレーニングやシミュレーターでの練習で少しずつ体が慣れ、今では最初の頃程の辛さは無くなりました。姿勢が安定してくると、楽しさやもっと上達したいという気持ちも強くなり、騎乗時に余裕が生まれ、馬とのコンタクトなどにも意識を向けられるようになりました。

全体のレベルが上がってくると、初めの個人レベルに合わせてチーム分けされていた訓練から、一人一頭乗りの全員での訓練に移行していきました。訓練場所も屋内の覆馬場から屋外の角馬場へと替り、徐々に馬を扱えるように800m走路での騎乗訓練が始まりました。800m走路では、前の馬と3馬身差を保つのと同時に走行タイムを指定されるので、自分も含め研修生のほとんどが今でも苦戦しています。体内時計が正確ではない、馬を抑えられない等、理由は様々ですが、決められたタイムで馬を動かせるようになる為に日々切磋琢磨して、どの馬に乗っても変わらずに正確な騎乗が出来るよう精進しています。

単走で乗る事に慣れてくると、2頭で併せる二騎併走での訓練も始まります。単走とは違い、内と外に別れて行い、それぞれ意識すべき事も違うので、自分の事だけではなく周りを見ながら走らせる事が更に重要になってきます。前と隣との距離感、馬体が併せられているかどうか、それと共に自分の馬の状態やペース配分など、様々な点に注意して事故が起きないように心掛けて訓練を受けています。

二騎併走がある程度出来るようになると、BTCの施設での騎乗訓練も行うようになっていきました。広大なグラス坂路や屋内坂路などを使用した訓練では、始めはその迫力に圧倒されていましたが、慣れてくると落ち着いて騎乗できるようになりました。

このような施設は勿論、熱心に指導して下さる教官方、付き合ってくれる馬達がいてくれるお蔭で自分たちが日々成長できていることを忘れずに、感謝しながら研修を受けていかなければいけないと思っています。その事を忘れてしまうと自分達の成長はそこで止まってしまうと思います。この大変恵まれた環境で研修を受け、自分がどこまで成長出来るかという事に期待し、毎日精進していきます。立派なホースマンになることを目標に、技術は勿論人間性も高めていきたいと思っています。

「周りの人への感謝」

第 33 期生 城戸 航

B T C 研修が開講して約半年が経ちました。開講式当日には、研修施設の見学と共に、先輩方が走路で騎乗している姿も見ました。その姿を見た時、自分も先輩方の様に、馬に乗れるようになるのだという期待と楽しみがより一層強くなりました。また、私にとっては初めての寮生活もスタートし、同期の皆と上手くやっていけるのかなという不安もありました。

研修が始まって3週間ほど経過して先輩方が卒業し、いよいよ私達の研修が本格的にスタートしました。騎乗訓練も始まり、最初はロング場で軽速歩の練習をひたすらしました。乗馬経験の無かった私は、この軽速歩が全く上手く行かず、他の研修生と差が開いて行くのではないかという不安もあり、悩む日々が続きました。しかし、食事の時や入浴の時に、私と同じような事で悩んでいる研修生と励ましあったり、相談しあったりして、自分だけじゃないのだと安心もしたし、同じ事で悩める仲間がいるっていいなと思いました。そこから騎乗訓練を重ね、教官の分かり易い指導の下、上達していきました。

このB T C 研修は、騎乗技術の向上だけではなく、将来、育成牧場で即戦力となるために必要な厩舎作業や専門知識についても実技・学科を通して学ぶことが出来ます。また、就職してから大切になってくる協調性も寮生活を通して学ぶことが出来ます。この研修はかなり辛い事も多いですが、厩舎から帰ってくると寮監や食堂のおばちゃんが「ご苦労さん」と笑顔で言ってくれて研修の疲れを癒してくれ、美味しいご飯を出してくれます。また、栄養バランスにも気を遣い、毎食メニューを変えて食事を作ってくれているので、食堂のおばちゃんには本当に感謝しています。

現在B T C 研修が始まって半年が経ちましたが、周りの人の支えがなければ馬に乗ることは勿論、この研修を受けることすら出来なかったと思います。だから私は、騎乗の事、馬の事について、時に厳しく、時に優しく熱心に教えてくださる教官、私たちが社会に出て、仕事をしていけるよう人間性を指導してくださる寮監にはとても感謝しています。そして、私が馬の仕事をしたと言った時に、否定もせず本気で応援してサポートしてくれた家族は、私にとって大きな支えとなっています。これからも研修生活は続いていき、今まで以上に辛い事もたくさんあると思いますが、今研修を受けている17人の同期と共に乗り切って、来年の4月からは、人間としてもホースマンとしても立派になって、牧場で働きたいと思います。自分が担当した馬がレースに勝った時は何よりも嬉しいことだと思うので、その喜びをお世話になった人たちに伝えられるよう、残りの研修生活の一日一日を大切に過ごしたいです。

【研修受講者感想文・修了式を迎えて】

「新たなる目標に向かって」

第 29 期生 光井 渉

私達 29 期生は所定のカリキュラムを修了し、新たな環境の下で、一人の社会人、そしてホースマンとしての道を歩み始めようとしています。

殆どの研修生が乗馬未経験で、入講当初から慣れない事の連続で失敗ばかりの毎日でした。しかし、今思えば、そんな私達だからこそ日々の新しい発見や変化に感動し、馬に携われる喜びを感じ、意欲的に研修に取り組めたのではないかと思います。

騎乗技術に関しては、速歩のリズムさえ上手くとれずに何度も落馬したり、力任せな騎乗ばかりが目立った私達が、自分なりの課題を持ち、馬にとって何が最良なのか考えた騎乗ができるようになりました。厩舎作業においては、噛まれまいか、蹴られまいかと怯えながら行っていた手入れや曳き馬も、今では歩様の悪さや脚部の熱感などの馬の体調の変化にも気付き、対処できるようになりました。さらに、自分達の手で若馬の馴致、騎乗をさせてもらい、若馬の成長過程を肌で感じることでできた JRA 実習、実際に現場での仕事を経験させてもらった牧場実習等々、多くの貴重な経験をさせて頂き心身ともに大きく成長することのできた 1 年間でした。

BTC での研修は馬のことだけに没頭するには非常に恵まれた環境でした。多くのことを経験し、その中で多くの失敗や挫折もありましたが、その失敗があったからこそ、それを糧にして自分なりの答えを見つけ出し、次の機会に活かしていくことができました。そして、私達が悩み壁にぶつかったときには、いつでも手を差し伸べてくださった教官を始めとする BTC 関係者、JRA 職員の方々の支えがあったからこそ、1 人の脱落者を出すことなく修了式を迎えることが出来たのだと思います。

私達 21 名は、恵まれた環境と沢山の山の人達に支えられて BTC 研修を修了します。しかし、研修の修了は通過点であり到達点ではありません。21 名全員が無事卒業できたことに感謝しつつ、それぞれの牧場で、それぞれの夢、新たなる目標に向かって邁進していきたいと思えます。



「ありがとうございました」

第 32 期生 三宅 優里

私達 BTC 第 32 期生 18 名は無事 1 年間の研修を修了しました。私達がここまで成長できたのも、ひとえに周りの方々の支えがあったからだと思います。

入講当初、馬に触れたことすらなかった私に、基本的な馬の取り扱いから騎乗技術まで丁寧にみっちり教えて下さった教官方には本当に感謝しています。馬に関することだけではなく、人との良いコミュニケーションの取り方など学ぶことは数多くありました。ホースマンとしてだけでなく人としても成長できたのは教官方の指導のおかげであったと思います。

一緒に研修を受けた 32 期のみんなにもお世話になりました。自分より努力している人を見ては、私も頑張ろう、負けたくないという気持ちになりました。まさに切磋琢磨しながら共に研修を修了できたことをとても誇りに感じています。

そして教育用馬たちにも心からのありがとうを伝えたいです。手入れでは、噛んだり蹴ったりと怖い一面があることを教えてくれました。すべてが大人しい馬であると思っていた私にとって、これは大変な衝撃だったのですが、それと同時に一頭一頭性格が違い、個性を持っていることの面白さも教えてくれました。落馬したり抑えられなかったり失敗は数多くありましたが、その 1 つ 1 つが私達を成長させてくれたように思います。

他にも JRA や BTC の職員さん、寮監、食堂のおばちゃん達、たくさんの方々が私達の研修を支えてくれました。決して自分だけで上達したなどという傲慢は持たず、常に周りの方々への感謝、謙虚さを持ち続けていきたいです。

私達はこれからそれぞれが違う牧場に就職します。悩んだり壁にぶつかっても、BTC で学んだたくさんことや感謝を胸に刻んで、自分たちの夢に向かって歩き続けて行きます。これから少しずつでも恩返しができるよう努力していきますので、楽しみにしてください。



【研修修了者からのメッセージ】

「家族の絆～これからも馬と共に～」

第18期生 中村 陽子（旧姓 原口）

スマイルファーム

BTC ニュースをご覧の皆様、こんにちは。私は、現在、(株)スマイルファームという生産牧場を主人と6年前に開場し、たくさんの方々に支えられ、励まされ、おかげ様で忙しい毎日を送っています。

今から15年前、私はBTCの研修生でした。私は生産牧場の娘で、馬の仕事はひととおりできたものの、騎乗は全く経験がなく未知の世界でした。実家から少し離れたところに育成牧場があり、そこで人が馬に乗り調教をしている姿を見るたびに、かっこいいなあ！乗ってみたいなあ！という憧れが強くありました。また、海外でその勉強ができれば最高だろうな、という考えも持っていました。

しかし、相談した父からは猛反対で、おまえには向いていないといわれました。よしよしと馬を可愛がるだけでは、育成はやっていけないと念を押されたのも覚えています。だけど、反対していた父が、このBTCの研修制度があることを知り合いから聞き、私に勧めてくれた日はとても嬉しかったです。

当時のBTC研修には4月入学と9月入学があり、9月生の私たちには5ヵ月上の先輩がいました。4月生は高校卒業後に入ってくる研修生が多かったのですが、9月生は社会人を経験して入ってくる研修生が多く、私も2年の大学を経て実家の手伝いをしていたので9月入学でした。ですから、先輩なのですが、歳は下という状況が生まれていて、これもまた面白かったです。そして、何よりもアイルランド人の教官が4人おられ、あの時の騎乗の実技はとても勉強になりました。

未来のホースマンを目指して1年間、育成調教技術といろいろな知識を学び、仲間でもあり良きライバルでもあった同期たち、そして熱心な指導あるいは心のケアをしてくださった教官の皆さん、本当にお世話になりました。

当時は、BTC研修後に3人だけが3ヵ月間のアイルランド研修に行くことができ、私はBTC研修生で初めて女性として行かせていただきました。ここでの貴重な経験と、現在でも親交のあるアイルランドで知り合った日本人のホースマンとの出会いなどは、私のかげがえのない財産といえます。夢であった海外での勉強もかない、選んでくださった教官の皆さんには深く感謝しております。あの時、一緒に行った2人の同期は、今では素晴らしいホースマンとして活躍し、結婚し家族ができ良きパパでもあります。そんな2人を尊敬しています。

夢を持ち、馬の世界に飛び込んできた仲間も全員が馬に携わっているか？というところではありません。それだけ、理想と現実の差がある世界なのかもしれません。私は繁殖と育成を一緒にやっている牧場に就職したくて、仕事は大変でしたが、大手には経験

できないことをたくさん学びました。最初から、厳しい環境に自分を置くことが、今の牧場経営の原点なのかもしれません。主人とはこの牧場で知り合いました。東京出身で大学を中退して、この世界に入ってきました。何事にも疑問を持つので、獣医師や装蹄師、そして先輩のホースマンたちへの質問を通して実践的な知識を学んできたそうです。

生産のプロフェッショナルになり自分で牧場を開きたい！というのが主人の夢でした。開場への道は、順調ではありませんでした。まずは、貸してくださる牧場を探すことから始まりますが、なかなか見つかりません。そのため、見つかった時のあの気持ちの高鳴りは今でも忘れられません。貸してくださった牧場主さんには一生の恩があります。その牧場主さんもまた、自ら牧場を起ち上げた方で、60歳を過ぎても私たちより行動が早く、よく働くご夫婦です。私たちのことを理解し応援していただき、涙が出るほど嬉しかったです。私たちはこの御夫婦みたいになりたいと、今でも思っています。

開場したときは、功労馬2頭の預託と父から譲り受けた繁殖馬（空胎馬）3頭からスタートしました。馬にかかる経費は、こんなにもかかるものかと、不安が大きくなったこともあります。あんなに前向きだった私も、子どもが2人いましたので、保守的にもなりました。期待と不安の中で、必死で働きました。6年たった今もですが、毎日必死です。

6年の間に、人間として尊敬できる馬主さん、調教師さんに出会いました。主人とも話すのですが、恵まれすぎていると思っています。私たちのモットーは1頭1頭を大切に管理すること。丈夫に長く競馬で走ってくれることを願い、どこにも負けない愛情を注いでいるつもりです。

この世界で女性ホースマンは、なかなか馬の仕事続けることは難しいと思います。結婚、出産、育児に追われます。それでも私はずっと継続して馬の仕事に向き合い、主人と協力して強い馬作りに励むことができます。それは、お互いの両親が側にいてくれることが大きいのです。家族の協力あつてのスマイルファームです。

主人と馬に騎乗し調教をしていたからこそ、今の生産に生かせることも多く、生産はやればやるほど奥が深く面白いです。毎日が勉強で、夫婦ではまっているといっても過言ではありません。順風満帆の経営は難しいと思いますが、私たちがいつも楽しく仕事をするので、きっと馬もその馬に関わる人も笑顔になれると思っています。

後輩で開場した方がいるそうで、ぜひお会いしたいと思いますし、そういった方がまたBTC研修生から出てきてくれたら嬉しいです。馬に関わる仕事続けるには、先ず自分が将来何をしたいのか？しっかりビジョンを持つことだと思います！

BTC修了生が一人でも多く、馬の社会に残って活躍してくれることも願っています。これからも、私は馬と共に生きていきたいです。

【牧場紹介】

2009年、日高町福満にて開場し、繁殖牝馬、当歳馬、1歳馬を扱う生産牧場です。家族経営でしかできない、すべての馬を把握し、1頭1頭を大切に管理することをモットーにしています。現在は日高町庫富に移動し、冬期夜間放牧を取り入れるなど、馬を丈

夫に強くすることを目指して、日々勉強・チャレンジしています。

馬はもちろんその馬に関わる方々が笑顔になれるようにと想いをこめて、スマイルファームという牧場名にしました。



「すべては馬のために」

第31期生 小濱 哲平
シンボリ牧場勤務

競走馬の世界に足を踏み入れて、早くも2年半の月日が経ちました。はじめは馬に乗ってみたい、馬に関わる仕事をしてみたいと思って、BTC研修に入講しました。そして研修修了後、私は千葉県成田市にあるシンボリ牧場(有)に乗り役として就職し、そこで2つのことを実感しました。

1つは、馬づくりの難しさです。第1に自分自身の技術の無さを痛感しました。特に、馬を押す力が圧倒的に弱いと感じました。それまでは前に進むことを知っている馬に跨っていただけで、それを知らない馬や、鈍い馬に乗った時に全く太刀打ちできないことを知りました。また、馬のこともまだまだ理解していませんでした。馬の1つ1つの挙動から感じ取れるものが少ないと、馬を悪い方向へ導いてしまう可能性が高いので、感覚的、理論的に馬のことを未だに日々勉強しています。

2つめは、レースに勝たせることの大変さです。毎日調教を積み重ね馬を仕上げて、トレセンの厩舎に無事に送り出すことが私たちの仕事です。就職する前まで、私はこの仕事がかここまで大変だとは思っていませんでした。順調に調教を積み重ねていても、乗っている時以外で怪我をすることもあります。馬房で寝違えたり、暴れたり、ウォーキングマシーン内で暴れて脚を痛めたり、傷を負ったりすることもあり、そうすると運動量を減らさざるを得なくなる場合もあります。もちろん、調教中にも、指示されたペース通りに走らせることができなかつたり、引っ掛かったまま抑えられなかつたり、などの人為的ミスや、他にも何らかのアクシデントが起きてしまうと、順調に調教を進めていくのは難しくなってしまいます。

防げる失敗は未然に防がないと、いつまでも競馬に出走させられなくなってしまいますし、人馬ともに怪我をしてしまうリスクも高まります。そして、馬が無事に出走できても、勝つためには乗り越えなくてはならない要素がまだまだたくさんありますが、そこまですれば私にできることは応援しかありません。勝つことがどれだけ大変か、実感したからこそ応援にも力が入りますし、勝った時には喜びもひとしおです。

私は技術の面でも知識の面でもまだまだ未熟で、仕事でも失敗が多いです。だからこそ調教中は、この馬をどう動かすか、今この馬は脚などを気にしていないか、しっかり負荷をかけられているか、など様々なことを考え、できる限り多くのことを感じ取れるように、私自身が敏感に乗るように心掛けています。分からないことがあれば先輩方に教えてもらい、失敗しても引きずらずに反省して、心を切り替えて日々の仕事に取り組んでいます。

競走馬は結果が全ての世界で生きています。勝ち上がっていくごとに、その競走馬は

輝きを得られるものだと思います。その輝きを1頭でも多くの馬に与えられるよう私自身が日々学んで成長していきたいです。

【牧場紹介】

シンボリ牧場(有)は、千葉県成田市に本場を構え、現役馬の調教や若馬の後期育成など行っています。1周1800メートルのダートコースをはじめ、多様なコースが整っているので、各馬に合わせた調教が可能です。生産・初期育成は、日高に2カ所ある北海道シンボリ牧場と岩手シンボリ牧場で行っています。



【研修修了者の紹介（取材記事）】

第 28 期生 西岡 篤史

第 30 期生 江本 格

チェスナットファーム勤務

今回の取材にご協力いただいたのは、浦河郡浦河町にあるチェスナットファームです。この牧場は日高軽種馬育成総合施設軽種馬育成調教センター（以下B T C調教場）の近隣に位置し、このB T C調教場を有効に使用している牧場の一つと言えるでしょう。この牧場の特徴は、施設を有効に利用する事と並行して、スタッフの技術向上に力を注いでいるところだと言えるかも知れません。何と、当牧場の調教主任、広瀬祥吾氏は国体の馬術競技北海道代表選手でもあり（学生時代に優勝経験あり）、全日本障害馬術大会にも 2013～2014 年と 2 年連続で出場している凄腕ライダーなのです。そして、2014 年の G 1 阪神ジュベナイルフィリーズには当牧場で育成調教したクールホタルビ（G 3 ファンタジーステークス優勝）とスマートプラネットの 2 頭が出走し、今、勢いのある牧場の一つと言っても良いのではないのでしょうか！

そんなチェスナットファームに勤務している、しっかり者の西岡篤史さん、陽気な江本格さんに色々な話をお伺いさせていただきました！

まずは 2 名に何故この仕事を選んだのか聞いてみました。西岡さん『キッカケは 2003 年の有馬記念です。当時小学 6 年生だったのですが、勝ち馬シンボリクリスエスの走りに一目惚れし、この仕事に就こうと決心しました。』早くも小学校の卒業アルバムには馬の仕事に就くと書いていたそうです。江本さん『僕は 1997 年の天皇賞春を見て競馬が好きになりました。マヤノトップガンが勝ったレースです。高校を卒業後、福島の大学に進学したのですが、やっぱり馬の仕事に就きたいと思い立ち、即、中退しました（笑）その後、大学時代に知り合った友人の後押しもあり、B T C 育成調教技術者養成研修（以下B T C研修）を受験しました。』思い立ったら即行動、行動力があるんですね！

実際にチェスナットファームに勤務してみて、どの様な感想を持っているのか西岡さんに聞いてみました。『馬の仕事は本当に楽しいですね。それに、この牧場は主任を筆頭にスタッフの向上心が凄いです。育成調教だけではなく、コンサイニングもやっているのですが、コンサイニングではナチュラルホースマンシップを取り入れたり、騎乗技術面については、仕事が終わってから、牧場で繋養している乗用馬でレッスンをしてもらったりと、常に前向きにチャレンジしている様な気がします。』西岡さん、どうやら熱い気持を持って仕事に取り組んでいるようですね！

B T C 研修を卒業しておいて良かったと思う事や、もっと研修中に学んでおけば良かったと思う事がありましたら教えてください。では、江本さんお願いします。江本さん『良かった事といえば、牧場に勤務して直ぐに育成馬の騎乗や手入れを任せて頂いた事じゃないでしょうか。大学を中退してそのまま就職していたら、そうはいかなかったと思いますし。B T C 研修を卒業しているからといって即戦力とは言えませんが、牧場の方から安心して仕事を任せて頂いている様な気はしますね。うーん、研修中にもっと学んでおけば良かったと思う

事ですか？うーん、そうですね。何というか、全体的にもっとまじめに取り組んでおけば良かったと思います(一同笑)』今後は過去の反省を活かして精一杯仕事に取り組んでください(笑)

続いて、休日や平日仕事が終わってからはどの様に過ごしているのか2人に質問してみました。西岡さん『僕は本当に競馬が好きなので、2週間に1度の休みには1R～12Rまで馬券を買っていますね。平日の仕事の後は毎日乗用馬に乗って、主任に指導して頂いています。それと、週に2日程スナックにも飲みに行っていますね。』江本さん『最近はお金に余裕があれば、ススキノまで出向いて遊んでいます(笑)あっ、でも僕も競馬好きなので、もちろん競馬もやっていますよ。平日については、西岡さんと同じで乗用馬に乗ってレッスンしてもらう事が多いです。乗るだけではなく、主任や西岡さんの練習の手伝いとかもしていますけど。』普段はしっかりと仕事に取り組み、2週間に1度の休みには、それぞれ好きな事をしてリフレッシュしている様ですね。

牧場に勤務している中で一番嬉しかった事や、大変だと感じた事について教えてください。西岡さん『自分達が手掛けた馬が競馬で活躍してくれる事もそうですが、一番はトレーニングセールで併走をした時に、周りの人から良い併せ馬だったと評価してもらえた事です。自分が乗っていた馬と、併せた馬の両方が良く見える様に自分なりに考えて騎乗して、セリで2頭とも無事に売却された時は本当に嬉しかったです。大変だと思う事は、コンサルティングもやっているの、時期によっては時間に追われてしまいます。その時期は大変だなと感じるかもしれません。』おっと、ここで取材を受ける2人の後ろでデスクワークをしていた社長から一言！広瀬社長『すみません』(一同爆笑)社長、優しいお言葉ありがとうございます(笑)江本さん『一番嬉しかったというより、やりがいを感じている事は、ここ数カ月前から、馬主さん宛報告書用の写真撮影の持ち手の仕事を任されました。中々うまくいかないのですが、その様な仕事を任せてもらったことが楽しいっていうか、嬉しく思います。大変な事は西岡さんも言っていますが、セリ時期は忙しいですね。でも、僕は楽な仕事なんてないと思っているので、この仕事をしていて大変だなんて思った事は一度もありません。仕事していて楽しいです。』素晴らしい！ススキノ大好き江本さんの新たな一面を発見しました(笑)

最後に、これからの夢や目標について2人に聞いてみました。西岡さん『こうやって、北海道まで来て好きな仕事ができているのも、親に支えてもらっているおかげだと、いつも感じています。BTC研修時代の費用も負担してくれましたし。今もたまに電話を掛けてきてくれるんです。いつも気にかけてもらって本当に感謝しています。そういった事もあって、将来は生まれ育った兵庫に近い栗東で厩務員として働いて、ゆくゆくは調教師を目指していきたいと考えています。そして好きな仕事をして稼いだお金で親孝行が出来れば良いなと思っています。』江本さん『ちなみに僕は親からの連絡とかは全然ないです(一同笑)ですから、これから親の為に頑張ろうと思う気持ちも全然ないです(笑)技術的にまだまだ未熟ですし、何年騎乗員としてやっていけるか分かりませんが、乗せてもらっているうちは日々技術を磨いていきたいと思っています。当面の目標としては、チェスナットファームで長く働いて、社長の知識、主任や先輩方の技術を少しでも吸収して、次のステップに進めたら良いかなと思っています。今のところ、厩務員になろうとか、他の牧場で働こうという事は考えて

いません。』 2人共それぞれの目標に向かってこれからも頑張ってくださいね！

【取材を終えて】

今回の取材はチェスナットファームの事務所にて行わせて頂きました。写真撮影の為、調教場や厩舎にもお邪魔したのですが、笑い声あり、叫び声ありと非常にエネルギッシュな牧場だなという印象を受けました。西岡さん、本当にしっかり者で優しい性格だという事が伝わって来ました！江本さん、笑わせてくれてありがとう。ススキノで、はしゃぎ過ぎないように気を付けてください(笑)そして、取材にご協力頂いたチェスナットファームの皆様、お忙しい中対応して頂きありがとうございます！

(取材担当 H. M)

